

## 令和元年度 全国学力・学習状況調査(6年生)の結果概要について

平成31年4月に実施いたしました標記の調査につきまして、結果と考察がまとまりましたので、保護者の皆様にお知らせいたします。また学校ホームページでも公開しておりますので、ご参照いただければ幸いです。

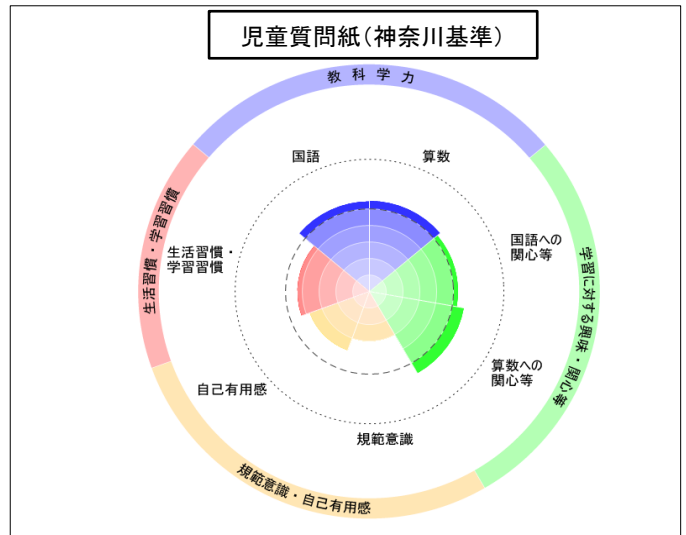
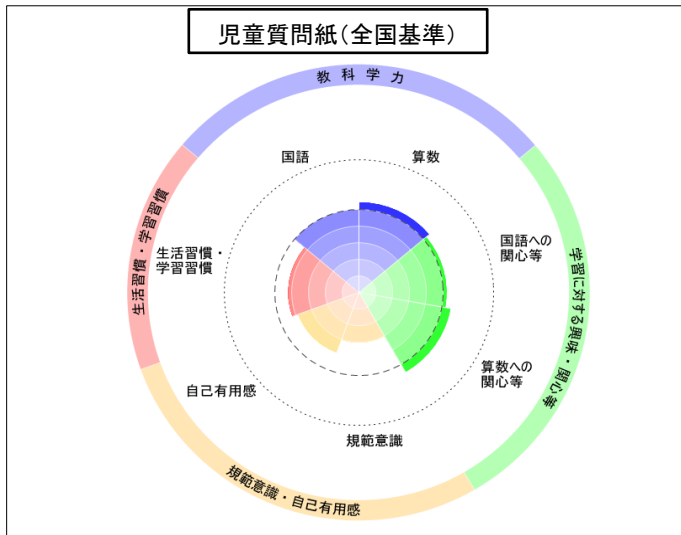
## 1 国語科、算数科の平均正答率について

	国語	算数
西前小学校	64.0%	69.0%
神奈川県(公立)	61.0%	67.0%
全国(公立)	63.8%	66.6%

## 【考察】

国語では登場人物の心情を読み取ったり、相手や目的に応じて筋道立てて話したりする力が高い結果となりました。今後も継続して朝読書やスピーチに力を入れ、言葉で正確に理解したり、伝えたりする力を高めていくよう指導していきます。一方で、言語についての知識理解では課題が見られました。学習した漢字を日常生活でも積極的に使い、本や新聞などの活字にふれ、語彙を増やしていくよう指導していきます。算数では、基本的な計算や文章題を読み取って適切に立式することはできていますが、割り算の式と商の意味を結び付けて理解したり、式の意味を説明したり、式の中の数値の意味を解釈したりすることに課題があるという結果が見られました。公式や計算の方法などをただ暗記するのではなく、なぜそうなるのかを考える習慣を身につけ、説明する機会を増やし、「数学的な考え方」を深めていくような授業に取り組んでいきます。個人差もありますので、個別に指導をしたり、課題が見られる内容について繰り返し指導したりしながら、よりわかりやすく、楽しい学習をすすめていきます。どの学習においても最後まで根気強く取り組む姿勢、主体的に学ぶ態度を育てていきます。

## 2 学力・学習状況調査(質問紙)の結果



※ 上記の円グラフの点線(---)の円が、左右それぞれ全国、神奈川県の平均値です。点線より、外側にあるものは、平均を上回る状況、円の内側にあるものは、平均を下回る状況と見ることができます。

## 【考察】

国語、算数の興味関心が高いという結果が得られました。この好奇心が学習意欲へとつながりどの教科においても学習内容の定着につながっていると考えられます。その一方「学校のきまりを守っている、どちらかといえば守っている」児童が県や全国では90%以上いるのに対し、本校では66%と規範意識が低い結果となりました。再度西前スタンダードを確認し、学校の約束の定着をはかっていきます。また「自分にはよいところがある」という回答も県や全国の平均を下回っており、自尊感情に課題が見られます。学校でも日常の授業や学校行事の中で児童の個性やよいところを積極的に認め、自尊感情を高める指導を重ねていきます。

学習面では「学校外で1日当たりどれくらいの時間、勉強しているか」という項目で「3時間以上している」が20%、「30分以下」が20%と二極化している実態が見られました。引き続き、自ら主体的に学習に取り組む態度を育てる指導を積み重ねていきます。また、読書時間、図書室・図書館の利用回数については、県や全国平均に比べ低い結果になりました。本に触れる機会の少なさが、学習の基本となる「言葉で正確に理解したり、考えたりする力」に課題が見られる要因の一つになっていると考えられます。担任と学校司書との連携をさらに図りながら、朝読書など、本に触れる機会を増やしていきます。

生活面では「毎日同じ時刻に寝たり起きたりしているか」という質問に対し「している、どちらかといえばしている」と答えた児童が85%以上にのぼりました。家庭での過ごし方や約束を守りながら、生活リズムを自ら整えていると考えられます。

「地域の行事に参加している」「算数が好き」と感じている児童が全国平均を上回っていたことはうれしい結果でした。今後も中学校併設型(小中一貫型)小学校として西中学校との連携を深め、子どもたちのよりよい成長のために指導を充実させていきたいと考えます。保護者の皆様、地域の皆様のご理解とご協力を引き続きお願いいたします。